

8月2日（日）主日礼拝レジュメ

「人生の学校で何を学ぶのか」 詩篇71篇17, 18節

詩篇71篇17節～

- ① 17節について、アラン・ロス氏のコメント「この詩篇の作者は、彼が直面しなければならなかったさまざまなことの中で、神のみことばを黙想し、神がどのような方かを深く教えられる中で、彼は神に信頼することを学んだ」 → 知識だけで終わるのではなく、聞くだけの者にならないように、みことばを行い、みことばに教えられたことに従って生きる。

この詩篇の作者も、さまざまな中を通らされた。4節では「わが神よ 私を悪者の手から助け出してください。不正を行う者や残虐な者の手から」と言わなければならないほど、悪者や残虐な者が周りにいて、10節では敵、いのちを狙う者どももいて、その者たちは彼のことをあざけり、ののしっていた。そのような中であっても、なお神を知り、神に信頼することを彼は神から教えられ、それを若いころから、人生の日々の出来事の中で教えられ続けてきた。神は、みこころにより私たちが人生の中でさまざまな試練や困難の中を通ることを許されることがあり、その中で多くのことを教えられる。

- ② ロシアの文学史家フリーチェは「人生は学校である。そこでは幸福よりも不幸のほうが良い教師である」と言った。学ぶべき大切なことの一つが視点の転換。人生という学校で主から何を教えられ、何を学んできたのだろうか。

「私は今なおあなたの奇しいみわざを告げ知らせています」18節「私はなおも告げ知らせます。あなたの力を世に。あなたの大能のみわざを 後に来るすべての者に。」なぜこのように言ったのか。一つが、彼には大きな確信があった。それは神はどこまでも真実であり、愛なるお方だということと、

神の力は、自分がどんな中にあったとしても自分を助けることができる、ということ。また、神は自分をここまで助け導いてくださり、このお方は自分だけではなく、自分の周りにいる兄弟姉妹に対してもその真実と愛をもって導かれ、その力による大能のみわざをもって、その方々を試練や苦難の中にあっても助け出され、導かれるという、この確信が周りの方々への証しとなった。まだ神を知らない方々に対しても主は愛とあわれみを持っておられることを私たちは信じている。その中にあって、一人でも多くの方々が人生という学校において、この神に出会っていただきたいと願わされる。だから、私たちは祈りつつ、主の力を世に、主の大能のみわざを世に告げ知らせてまいりたい。

2026年度の教会の年間目標が、「祈りつつ、主のみわざを告げ知らせる」だが、これまで主のみわざを告げ知らせ、主のみわざを周りの方々に証ししてきただろうか。私たちは、どんなみわざを見させてくださり、どのようなかたちで私たちは主に感謝を言い表し、主をほめたたえてきたか。

人生の学校で、主の奇しいみわざを通して主を知り、主に信頼することを学び、そして、周りの方々にも、特に試練の中にある方々にも、主のみわざの証しをもって励ましを与え、ともに祈り、そして神を知らず、人生の学校の中で孤独を抱えている人にも、ともにいてくださる神を見出すことができるようにこのお方と主のみわざを証ししたい。